

2006年 1月26日京都新聞朝刊に
武田敏也副院長の『食生活と腎臓病』に関する記事が掲載されました。

家族で考える健康 ～ 生活習慣と病気 ～ Q & A 専門医がお答えします



実際の新聞記事

食生活と腎臓病

- Q** 腎臓病と食事の関係は。
- A** 私たちは毎日栄養や水分をとり、それをエネルギーや体の成分に変えて生きていけます。その時必ず栄養分の燃えカスや体に不必要な老廃物ができます。それらを過不足なくすべて溶かし込んで尿として体の外へ出すのが腎臓の大切な働きです。
- Q** 腎臓病とは。
- A** 腎臓の機能が悪化すると、体に必要な成分まで尿に混じって体外に出すなど、体内のバランスを正常に維持できなくなってしまいます。腎臓病には急性糸球体腎炎、急性尿細管壊死、急性間質性腎炎など急激に腎不全から生命に危険が及ぶ急性腎不全と糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎といった腎臓が元の機能に戻ることはなくても、生命の危険はそれほど高くなく慢性に経過する病気があります。
- Q** 治療法は。
- A** 腎臓病が進行し、尿の中に排泄されるべき毒素が蓄積するようになると、内服や食事制限だけではコントロールできなくなり、人工的に血液浄化する透析療法が必要になります。血液透析(HD)と腹膜透析(CAPD)のうち、腹膜透析はおなかの中にカテーテルから透析液を入れ、半透膜である腹膜を通して自然な形で水や老廃物を取り除いて血液をきれいにする方法です。近年では、自宅のイスに座りながら自分で透析液のバッグ交換ができ、毎日(夜間寝ている間)でも透析が行える療法も普

及しつつあります。

Q 予防と家族ができるサポートは。

A 腎臓病の自覚症状は尿に現れ、尿の量が多くなったり、減るとか、トイレの回数が増える、尿が濁るなどで、自分自身や家族の方でも判断ができます。腎不全になる可能性が高い生活習慣を改善することで、高血圧、糖尿病、肥満にならないようにすること。特に糖尿病の人は腎不全になりやすく、バランスのとれた食事と適度の運動、睡眠と休養の実行をお勧めします。

2006年 1月26日付 京都新聞(朝刊) より